

タイムテーブル

1日目 11月16日 (土)						
時刻	A棟			B棟		C棟
	第1会場 AC231	第2会場 AC232	第3会場 AC237	第4会場 グランドホール	第5会場 カンファレンスホール	第6会場 ギャラリー
09:30-10:30				開会式 1 (4) 0 大会長講演		
10:30-10:40	移動・休憩					
10:40-12:10	1 (1) 1 公募シンポジウム 研究プロセス、出口戦略を見据えた研究審査とは：ICH-GCPリノベーションを批判的に吟味する	1 (2) 1 公募ワークショップ 動物という“対話できない”者たちの生命倫理：学術・市民活動・動物党の連帯の潮流	1 (3) 1 公募ワークショップ 介護現場における利用者の自己決定の現状を考えると：介護現場で生命倫理(規範倫理)の果たす役割と課題	1 (4) 1 公募シンポジウム 小児の生命維持治療をめぐる「話し合い」を再考する	1 (5) 1 一般演題(口演) 1) 自律は不要な概念なのか 2) 安楽死とIntegrity(統合性)：優美さと尊厳 3) 「社会的合意」論とは何であったのか：テクノロジー・アセスメントとしてのバイオエシックス 4) 日本における終末期医療の開始・不開始・中止に関する規範と制度：ガイドラインとインセンティブによる二層システムの倫理	
12:10-12:20	移動・休憩					
12:20-13:20	昼休み					
13:20-13:30	移動・休憩					
13:30-15:00	1 (1) 2 公募シンポジウム アドバンス・ケア・プランニングにまつわる疑問点、問題点を通して、今後のあり方を考える	1 (2) 2 公募ワークショップ 医療・福祉アーカイブズのELSI検討とPAB(患者・市民アドバイザリーボード)の実践：医療・福祉に関する歴史的資料の公共的利活用を目指して	1 (3) 2 公募ワークショップ 優生保護法下で聴覚障害のある人に行われた強制的な不妊手術：弁護士、被害者、支援者、研究者の視点から		1 (5) 2 一般演題(口演) 1) 1980年代から90年代初頭の医学部/医科大学の倫理委員会：自発的設置の背景の検討 2) 安心して細胞提供するために必要な要素の解明：潜在的細胞提供者への半構造化面接より 3) Ethics of Research Engagement with Deaf People: A Qualitative Evidence Synthesis 4) 宇宙環境における人を対象とする医学系研究に関する倫理的課題の検討	ポスター掲示のみ
15:00-15:10	移動・休憩					
15:10-16:40	1 (1) 3 公募シンポジウム 在宅医療・介護従事者を暴力・ハラスメントから守るための基盤づくり：対話・倫理・法の視点から考える	1 (2) 3 公募ワークショップ 提供配偶子を伴う生殖補助医療に関する法律と「出自を知る権利」：当事者支援として何が必要かの検討		1 (4) 2 大会特別企画：講演(一般公開) Vulnerable Personhood and Social Exclusion in the Welfare State	1 (5) 3 一般演題(口演) 1) (取り下げ) 2) 医療現場でのAIの利用に関する医療関係者の視点：フォーカスグループインタビュー研究から 3) 二次研究で判明する偶発的所見をめぐるELSIの検討 4) 出生前のゲノム情報取得と人の尊厳	ポスター掲示のみ
16:40-16:50	移動・休憩					
16:50-18:20	1 (1) 4 公募シンポジウム 穏やかに旅立つために必要なものは何か：日本、韓国、台湾における制度や実践を比較しながら考える	1 (2) 4 公募ワークショップ 臨床倫理・文学・演劇	1 (3) 3 公募ワークショップ 生命倫理学の「生命(いのち)性」を問う	1 (4) 3 学会企画シンポジウム 生命倫理学と障害者差別の解消：配慮と対話の交錯	1 (5) 4 一般演題(口演) 1) 小児期発症遺伝性疼痛症候群に対するPGT-MIに関する遺伝医療の専門家の認識：見解/細則の改訂に伴う変化 2) 「患者としての胎児」とフェミニスト生命倫理 3) 日本における内密「赤ちゃんポスト」へのガイドライン提言：危害程度の低減による救済原則への倫理的分析	ポスター掲示のみ
18:20-18:30	移動・休憩					
18:30-20:30	懇親会 (B棟1Fイベントホール)					

タイムテーブル

2日目 11月17日（日）

時刻	A棟			B棟		G棟 第7会場 C372
	第1会場 AC231	第2会場 AC232	第3会場 AC237	第4会場 グランドホール	第5会場 カンファレンスホール	
09:00-10:30	2 (1) 1 公募シンポジウム オルガノイド研究の現在とELSI	2 (2) 1 公募ワークショップ 痛疾倫理コンサルタントへのキャリアパスの多様性と専門性を考える	2 (3) 1 若手発表奨励賞セッション 1) 胎児超音波検査のインフォームド・コンセント：経産婦へのグループ・インタビューより 2) 保健医療分野のソーシャルワーカーの固有の倫理的視点とはなにか 3) 患者からみた共同意思決定の核となる『話し合い』が成立する要素：透折患者のナラティブ分析から 4) 日本の医師・看護師を対象とした新型コロナウイルス感染症パンデミックにおける医療資源配分の現状と課題に関する質的研究	2 (4) 1 公募シンポジウム 「運命をかけたくない」という思いとは何か：思想史学・文化人類学の視点から	2 (5) 1 一般演題（口演） 1) トリアージの意思形成を問う 2) 公衆衛生の向上とプライバシーの保護：日本と台湾の経験から 3) 認識的不正義の観点から見たワクチン倫理：HPVワクチンの事例を中心に	ポスター掲載のみ
10:30-10:40	移動・休憩					
10:40-12:10	2 (1) 2 公募シンポジウム 内科的な胎児治療研究をめぐるELSIについて	2 (2) 2 公募ワークショップ 市民とともに考える先端医学研究と社会：ヒト幹細胞から生種細胞を作るiVG研究を例に	2 (3) 2 若手論文奨励賞受賞者を囲んで（11:40まで） 優生保護法第4条に基づく強制不妊手術対象者の探査：1950年代北海道の保健所の事業からの検討	2 (4) 2 公募シンポジウム ゲノム医療推進のための遺伝子差別禁止の法整備をめぐる動向	2 (5) 2 一般演題（口演） 1) 音楽活動を通じた子ども・若者のインテグレーション推進に係る制度及び実践の動向と課題：部活動の地域移行に係る検討を中心に 2) セルフ・ネグレクトの状態にある高齢者に対するわが国の支援体制の分析 3) 児童養護施設で暮らす子どもたちの“自尊心”を保障する環境とは 4) 法的側面から見たAI/高齢者支援技術の導入と高齢者のプライバシー/自己決定	2 (6) 1 ポスターセッション 1) 1950～1960年代の日本における幼児・学童児の人体実験 2) 長期高齢者療養施設に勤務する介護職が捉える倫理的問題と対応 3) 韓国におけるハンセン病政策の歴史：「定着村」政策と「浄化計画」 4) 医学系研究における不適合の発生低減に関する調査研究 5) AI医療における「責任」の所在について
12:10-12:20	移動・休憩					
12:20-13:20	昼休み					
13:20-13:30	移動・休憩					
13:30-14:30	委員会					
14:30-14:40	移動・休憩					
14:40-16:10	2 (1) 3 公募シンポジウム BMI・AI融合領域における生命・医学系研究開発のデュアルユース問題	2 (2) 3 公募ワークショップ パンデミックELSIの諸相	2 (3) 3 公募ワークショップ 「共感（empathy）」とは何か：研究参加者との対話に必要な「共感」について考える	2 (4) 3 国際シンポジウム（国際交流委員会） Current Topics of Bioethics around the Globe: AI in Medicine	2 (5) 3 一般演題（口演） 1) 倫理的側面からみたAI/高齢者支援技術の導入と高齢者のプライバシー/自己決定 2) 日本母性保護協会と優生保護法下の優生手術 3) 生命倫理の研究分野の動向と課題の分析：日本生命倫理学会誌とHastings Center Reportから	
16:10-16:20	移動・休憩					
16:20-17:50	2 (1) 4 公募ワークショップ 生命倫理学教育における資料のあり方を考える：資料のアーカイブ化および活用方法の共有にむけて	2 (2) 4 公募ワークショップ 緩和医療と「安楽死」のはざま	2 (3) 4 公募ワークショップ 医療専門職のための生命倫理教育：海外で生命倫理を学んだ経験から日本の生命倫理教育を考える	2 (3) 4 大会企画シンポジウム 公共文書としてのヘルスケア・アーカイブズのデジタル化と生命倫理		
17:50-18:00	移動・休憩					
18:00-18:15	閉会式					